

# 平成 25 年度愛知県公立高等学校 入学者選抜方法協議会議まとめ

## 全日制課程における入学者選抜制度の改善

### 経緯

平成25年5月に、「入学者選抜方法の改善に関する検討会議」において、新しい入学者選抜制度の大枠についてのまとめが得られた。

### 【まとめの主なポイント】

学力検査は、これまで以上に思考力・判断力・表現力等を測るものとなるようにすること。

現行の推薦入学を、一般入学の日程の中に取り込み、「推薦枠」の選抜として実施することにより、入試日程を短縮すること。

尾張学区については、群およびグループの一部見直しと、1・2群共通校の設置を行い、三河学区については、二つの群を一つにし、グループ分けの見直しを行うこと。 など

このまとめに基づき、平成25年6月以降、「愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（入選協）」において、新しい入試制度の詳細について検討を行ってきた。

入選協における主な検討項目は、学力検査の時間及び配点、入試日程、推薦枠の選抜基準及び実施時期などであり、以下に入選協においてまとめを得られた主な改善点を示す。

## 主な改善点

### 学力検査の検査時間

推薦枠の選抜を受検する者を含め、公立高校を志願する者が全員受検することとなった学力検査において、新しい学力観に立って、思考力、判断力、表現力等を今まで以上に測るためには、検査時間を伸ばす必要がある。

各教科40分。ただし、外国語（英語）は聞き取り検査を10分間程度、筆記検査を35分。

各教科45分とする。ただし、外国語（英語）は聞き取り検査を10分間程度、筆記検査を40分とする。

### 学力検査の配点

思考力、判断力、表現力等を今まで以上に測る問題とするためには、配点を増やす必要がある。

各教科20点、学力検査合計得点の最高を100点。

各教科22点、学力検査合計得点の最高を110点とする。

### 入試日程

入試日程が長期にわたり、年度内に全ての選抜が終了していない（通信制課程後期選抜の合格者発表が4月となっている）。これまで別日程で実施してきた推薦入学を「推薦枠」として一般入学に取り込むことにより入試日程のコンパクト化を図る。中学校の卒業式の期日を繰り上げることにより、合格者発表日を前倒しする。

### 平成25年度

推薦入学面接	2月18日
一般入学学力検査等	3月11日 ～ 3月15日
一般入学合格者発表	3月21日
通信後期合格者発表	4月3日

推薦入学と一般入学を同日に実施することなどにより、通信制課程後期選抜の合格者発表日を含めて、年度内に全ての入試日程が終了できるように日程を調整する。

### 推薦枠の選抜基準

これまでに職業学科の中でも農業科、水産科、福祉科及び衛生看護科で実施されてきた後継者に関する選抜基準を工業科、商業科及び家庭科を含めて職業学科全体に拡大し、職業学科のさらなる活性化につなげる。

農業科及び水産科において、後継者となる、又は当該学科に関する職業に就く意志を有する者。福祉科及び衛生看護科において、各種資格を取得する意志を有する者。

職業学科において、当該学科に関する職業に就く意志を有する者。

### 実施時期

制度について十分な周知期間をとる必要がある等の理由から、新しい群及びグループ分けを含め、平成29年度入学者選抜から実施する。

## 平成25年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議

### ま と め

#### 諮問事項2について

愛知県公立高等学校入学者選抜方法を、次のようにすることが望ましい。

全日制課程における新しい入学者選抜制度のあり方については、次のとおりとする。

#### 推薦枠について

##### 1 選抜基準

(1) 推薦枠の選抜における合否の判定は、提出された書類の内容及び面接の結果を資料として、次のいずれかの選抜基準に基づいて、総合的に行う。

ア 人物が優れており、運動、文化、芸術、奉仕活動等の諸活動(特別活動及び総合的な学習の時間における活動を含む。)のいずれかにおいて優れた能力・適性及び実績等を有する者。

イ 人物が優れており、恵まれない環境を克服し、向学心に富み、生活態度が他の模範となる者。

ウ 人物が優れており、調査書の「学習の記録」が優秀で、学習活動において他の模範となる者。

エ 職業学科においては、人物が優れており、進路希望が明確で、将来、当該学科に関する職業に就く意志を有する者。

オ 音楽及び美術に関する学科においては、人物が優れており、当該学科の分野で優れた能力・適性及び実績等を有する者。

(2) ウ推薦を実施するかどうかについては、各高等学校長が決定する。

(3) その他の事項については、現行のとおりとする。

##### 2 推薦枠における定員の割合

(1) 普通科においては、選抜基準ア、イ及びウに該当する合格者数の合計は、当該高等学校・学科の募集人員の10%程度から15%程度とする。

なお、選抜基準ウに該当する合格者数は、選抜基準ア及びウに該当する合格者数の合計の50%以下とし、選抜基準イに該当する合格者数は、当該高等学校・学科の募集人員のおおむね5%とする。

(2) 専門学科においては、選抜基準ア、イ、ウ、エ及びオに該当する合格者数の合計は、当該高等学校・学科の募集人員の30%程度から45%

程度とする。

なお、選抜基準イに該当する合格者数は、当該高等学校・学科の募集人員のおおむね5%とする。

(3) 総合学科においては、選抜基準ア、イ及びウに該当する合格者数の合計は、当該高等学校・学科の募集人員の30%程度から45%程度とする。

なお、選抜基準イに該当する合格者数は、当該高等学校・学科の募集人員のおおむね5%とする。

#### 学力検査と調査書比率について

1 学力検査・調査書の特定教科の得点の比重を高めることができる学校、学科及び実施方法

(1) 専門学科における傾斜配点は、現行のとおりとする。

(2) 普通科及び総合学科においては、傾斜配点は行わない。

2 学力検査の検査時間及び配点

(1) 5教科の学力検査については、これまで以上に思考力、判断力、表現力等を測る出題とすることを踏まえて検査時間を延長し、各教科45分とする。ただし、外国語(英語)は聞き取り検査を10分間程度、筆記検査を40分とする。

(2) 各教科22点満点とし、学力検査合計得点の最高を110点とする。ただし、外国語(英語)における聞き取り検査の配点は4分の1程度とする。

(3) 特定の教科については、学力検査問題の一部を高等学校が選択して実施できるようにすることについて、今後、検討課題とする。

#### 面接及び実技検査について

1 面接の実施方法等

(1) 推薦枠と一般入学における面接は、別々に実施する。

(2) 面接方法(個人面接、集団面接(グループ討議を含む。))や面接時間等、面接の実施に関する必要な事項は、高等学校長が定める。

(3) 推薦枠における面接は、「ことばによる自己表現」に代えて、その趣旨を踏まえた質問内容を取り入れて実施する。

2 推薦枠及び一般入学における実技検査の実施方法

(1) 実技検査を実施する学科は、国際英語科及び国際教養科を除き、現行のとおりとする。

(2) 国際英語科及び国際教養科の推薦枠による選抜においては、実技検査として英語による問答を実施できる。

(3) 国際英語科及び国際教養科を除き、実技検査は、推薦枠、一般入学とも同一の内容で実施する。音楽科の実技検査については、今後、継

続いて検討する。

(4) 実技検査は面接実施日に実施する。

一般入学における校内順位の決定方法について  
このことについては、現行の方法どおりとする。

出願にかかる提出書類について

- 1 調査書、推薦書、自己申告書 A などの出願にかかる提出書類は、現行のとおりとする。
- 2 エ推薦の志願者については、将来、当該学科に関する職業に就く意志を推薦書の「推薦の理由」欄に中学校が記載することとする。
- 3 推薦枠の選抜においても自己申告書 A、B とともに提出できることとする。

入試日程について

通信制課程後期選抜の合格者発表日を含めて、年度内に全ての入試日程を終了できるように日程を設定する。

なお、具体的な入試日程の設定に際しては、中学校 3 年生の 3 学期に落ち着いた学習環境を確保するために、入試日程を短縮することを念頭に置くこととする。

その他

志願変更については、推薦枠志願者は、第 1 志望校を志願変更できないこととする。

また、志願先高等学校長は、病気、交通途絶等やむを得ない事情により、指定された時間に学力検査を受検できない志願者に対して、その判断により、時間を遅らせて別室で受検させるなど、志願者の個別の事情に応じて学力検査当日に学力検査を受検できるよう、最大限の配慮を行うこととする。

なお、合格者発表の方法については、掲示による発表は現行のとおりとし、推薦枠の合格については、中学校長を通じて本人に通知することとする。

実施時期

実施時期は、新しい群及びグループ分けを含め、平成 29 年度入学者選抜からとする。